

「大樹に育つためには、小さな自信の芽を伸ばしてあげましょう」

その1

園長 高杉美稚子

私は22年前、前園長の不慮の事故により27歳の時に園長になりました。また、私自身が15歳の時、医師の診断ミス（当時の医学では、しかたなかった事を申し添えますが）により3ヶ月の命と告げられ、開頭手術を受け、長期の入院を余儀なくされるという経験を持っていました。また一人目の子どもを流産するという経験もありました。その経験があったおかげで、園長就任の時に、危機の時パニックにならずどう対応していったらよいかという危機管理能力みたいなものが、少しは身につけていたのかも知れません。そして、この23年に及ぶ園長として、多くの保護者、教職員、そして我が子に接してきた日々の生活の中で、いろいろなきづきがありました。今号から数回に渡ってそのことについて少し触れたいと思います。

1、いつも夢を持とう。目標を明確にしよう

私の小学一年生の時の将来の夢は「園長先生になる」ということでした。「なりたい」ではなく「なる」というのが親の職業であり、一人娘の私は小さな頃から使命感を持って自覚していたのでしょう。我ながら、あきれほどの決意でしたね。小学生の頃は同じ年齢の友達が幼く見える、そんなおませ子どもであった事を覚えています。そして、その夢のとおり、現在、園長職をさせていただけることは、私はなんと幸せなことでしょうか。

でも自分の人生を省みれば、私はこの目標に向かって小さな具体的な今自分がやれる事をやれることからしていたのだと気付きます。それはとても自然なことでした。今、心理学を学び、目標の明確化とその実現のために小さな、今出来ることから始めることが大切である事が理論としてわかっていますが、若い頃の私は、そんなことは知らなかったのに振り返ってみると、それが今の私を作っている事に気付きます。

園長になるから小学生の時はピアノと日舞を練習し、役に立つだろうから、演劇部と放送部に入る、中学生ではやっぱり先生は体力と美意識がいたいテニス部と美術部へ、高校は歌も必要かなとコーラス部へ、ここではミュージカルを始めました。大学では学内の主な行事を統括し、子ども達を野外活動につれていたり、ダンスやさまざまな歌や遊び、手作りのおもちゃ作りなどを指導し、リーダーシップを養うクラブを選択していました。そして大学4年生の時は学校経理を学びに経理学院に入学したりもしました。

思えばすべては将来の夢「園長先生になる」に向かっていたのでした。だから27歳の時に、本当に怖いもの知らず、（今となってはよくやろうとしたなと恐ろしくなるくらいなのですが、）園長になる事に何の躊躇もなかったのではないかと思うのです。知らずにやっていた体験が、目標に向かって心の準備を整えてくれていたと思うのです。最近『13歳のハローワーク』の本も人気を博しています。これからの子ども達にとっては、（もちろん『子育て、人生に遅いことはない』という格言も大切にしなければならぬのですが、一方で）早い段階からの、目標設定が大切になってくるとも思うのです。

もちろん、どうやって目標を決めたらいいのかわからない時もあります。人に対して腹を立てているときもなぜ腹を立てているのか自分でもわからない時があります。そして文句を言ってどうしたいのか明確でないのに怒っていたりするので。

その時は、

「自分はどくなりたいか？何をどうしたいのか？どのような状態になったときに目標を達成したと感じる事が出来るか。いつ、どんな時に、誰とともに自分はどのような姿でありたいか。目標を達成すると自分はどんな影響を受けるか？何が自分の気持ちをどうさせるのか、また、

それを止めているのは何なのか？そのために自分の持っている知識や体験で生かせることは何か、今から付け加える役に立ちそうなものは何か。最初に始める第一歩は何なのか、そしてそれは達成する価値があることなのか、達成することによって弊害はないか」

その事に気付いて自問していくと、比較的、本当の自分の気持ちに気付いて目標を明確にする事が出来ます。目標が決まらない時、自分がどうしたいのかわからなくなった時にこの自問を是非してみてください。子ども達が迷った時に優しくこの質問で、たずねてみてあげてください、自分の心の中の本当の目標が決まると、とても気持ちが落ちつくものです。

今後、社会で求められる人材として、一つは「本当の意味のプロとしての自覚と専門性を持つ人」です。将来を見据えて、今何をしたらいいかを考え、日々邁進し、資質向上できる人が必要です。二つ目は「学んだことを単なる知識に終わらせず、思考錯誤体験を通して、体の奥に響く感性に裏付けられた知恵に変えることができる人」です。さらに、「他者とのコミュニケーションが図れる人」で、個別性を持ちつつ、相手と自分の心を同時に大切にできることが大切です。

子ども達がこれからどの業界へ進むにしても、すべては夢から始まります。夢を持つということは目標を明確にすることです。目標を決めたら、その目標を小さく分けて、まず今日できることをできる範囲でやってみましょう。もし、その中の何か一つでも達成できれば、それがまた次のやる気と行動を引き起こします。それが夢を持ち続ける為の秘訣です。明確化された夢は必ず実現します。「行動しないで後悔するより、行動して反省する人」になってほしいものですね。人生は二度ありません。自分の為の自分自身の人生です。他者評価ではなく自分で自分が認められる人生を送ってほしいものです。

そして親や教師は、こんな子に育ててほしいと願い、教育し、子育てする時、子ども達がどんな時代に生きていくのか、という事がある程度予測して、教育にあたる義務があると私は考えます。子ども達は、今を生きるのではなく、20年後を生きていく子ども達なのであります。

子ども達が成人する、15年後はどんな時代がやってくるのでしょうか。もちろん、人は、いつの時代にも、順応してきましたので、これからもおそらく、少子高齢化対策、税制、福祉の対応、エネルギー、環境関連技術の開発、医療改革、教育改革等、あらゆる知恵をしぼって乗り越えていくことでしょう。

では、その中で、どう生きていってほしいのか、どうすれば、生きていける大人に育てていくのか、大きな視野に立って子育てをしなければと思います。近年、あまりにも、目の前の事象にとらわれて、子育ての視野が狭くなっている、そこで、親自身も、いえ親のほうに疲れている。その体験を通して、子どもが何を気付き、どう成長しようとしているのか、見極めずに、前に、前に経験の場をつみ取ってしまっている、そんな場面が多いような気がしてなりません。私達も含めて、今一度、子育てを振り替える良い機会と致しましょう。

「生きるとは何か」（島崎敏樹著）の本の最後のページの最後の2行にこんな言葉があります。「生きるとは、自分と共に歩もうとする友と、肩と肩を組み、前方に見えるかすかな光に向かって一歩前に進もうとする存在ではなかろうか」。感動した部分は、「・・・前に進もうとする存在・・・」というところです。人生とは結果ではなく、過程にこそ価値が存在しているのです。目標を決めたら、闇雲に結果だけを評価するのではなく、皆で目標に向かって毎日努力しているその過程（プロセス）そのものにも価値を見出し、力強く前進していきましょう。人は未来に向かってどこかの部分が「いま」確実によくなりつつあるのです。苦手ではなく『少しずつ上達している』のです。

「夢とは、ただ語るものではなく、ただ願うものではなく、それをかなえようとするその人の心意気そのもの」です。

2、自分が好きという気持ちを大切にしよう。そのために感覚を鋭敏にしましょう。

自分が好きなことだったら、どんなつらいことも乗り越える事が出来る元気とやる気が出ます。根気よく続ける原動力となります。だから自分が好きなことは何なのかを見極める力が必要です。これは1の「目標の明確化」でも出来ますが、自分の感覚の鋭敏性を磨く事が更に大切になってきます。これは自分に合うのか、合わないのか、自分がどう感じているのか、微妙なものは自分の肌感覚で判断するしかないのです。

私の好きなもの、生きがいは何かといえば、幼児教育であり、一番に好きなものは「吉塚幼稚園と園児達と先生達」です。私は昔は、感覚の鋭敏性が鈍かったので、もっと何かはどこかにあるかもしれないと思い、勉強を続けましたが、学べば学ぶほど、『幸せの青い鳥は幼稚園にいる』事に気づき、いかに自分がこの仕事を、この幼稚園を愛しているかに気付いたのです。職員も多分この幼稚園が、園児達が大好きだといってくれれば、確信していますが、私の思いは誰よりもっと強いと思います。私よりこの幼稚園を愛している人間はいないという思いが園長職を实践する力となっているといつて過言ではないでしょう。

そう思えば、創設者の両親の思いがいかばかりであったか思い当たりますし、一生懸命働いていた姿を思い出すにつけ、その姿から教えられたこと、そしてこの思いがあるから人間は頑張れるのだと思います。その意味でも、自分が好きなことは何なのかを肌で感じる事が出来る、そしてその感覚を信じられる大人に育てないとならないと思うのです。だから、まず、自分がどう感じているかというこの感覚に気付く事が大切です。

また、感覚が鈍い事は、人の心に気付けない、即ち、人の気持ちがわからない、だから、人付き合いが下手である、とこうなるわけです。自分の感覚にも鈍感な人は、自分が今、なんで腹がたっているのかわからない、時には傷ついている事にさえ、気付かなくて腹がたっているそんな状態になるのです。自分の心の傷に気付かなくて、人の心の傷をわかって上げる事出来るはずがありません。

静かに自分の心と向き合う時間を持つ事が大切です。そして本当に自分が大事にしなければならぬ事が肌でわかればすべて大丈夫。好きこそものの上手なれですね。

3、苦しい・つらい・悲しい体験は次へのステップ

私は無宗教ですが神様は決して、その人にとって不必要な経験をお与えにならないと思っています。必要な体験を必要なだけ順番に与えて下さっているような気がしてならないのです。開頭手術のときに、自分と向き合えたことそのおかげで、園長就任の時に動じなかったと思っていますし、その間に一人目の子どもを流産するという体験も、前園長の事故も、そのとき乗り越えるために、そして幼稚園での子ども達の健康を考えた園舎を建築する為の私の手助けになっていたように感じています。

逆に言えば、そのことを通して学ぶ必要がある私だから、その問題が自分に起こってくるのです。そのことを既に乗り越えていたらそのことは自分にとってつらいことにはならないから自分にはその体験はこないのです。だからどんなつらいことも、どんな苦しい経験も自分が成長するために、そして自分がいたらないことを教えてくれるためにあると思えば、皆ありがたい体験なのですね。そして、小さな体験を乗り越えたという自信が、次の大きな体験をクリアしてくれる糧になるのでしょうか。

だから、私は、どんなに苦しい事があっても、つらい事があっても、「神様はこの体験を通して私に何を学べといっているのだろう」「この体験を乗り越えると、どんな自分が待っていてくれるのだろう」と思います。そうすると、不思議に困難に立ち向かう勇気がわいてきます。こんなことで、へこたれないぞというやる気、転んだらただでは起きない、苦しい思いをしたのだから、何かをつかんで、立ち上がるぞという根気が沸き起こってくるのです。ジャンプの前には、十分小さくなる事も必要なことです。そして心が過去にいるときは失敗と感じ、心があせってばかりで未来にいるときはただの不安や過度の期待であったりするけれども、今ここでどうしたらよいか、高い目標を明確化し、その中から小さな今出来る手段に変えて、自分が実行できることからやり始めれば、いつの間にか目標が達せられ、失敗だと思っていた事も次のステップの結果でしかなくなるのです。すべてを肯定的な言葉と思いにとらえることです。「〇〇が出来ないからだめではなく、苦手だけど

やれるところまでやってみよう」「いつも失敗ばかり」ではなく「いつも失敗から学んでいる」ととらえるのです。

だから、小さい時のつらい、苦しい、悲しい体験を排除しないことです。目をつぶらないで、向き合うことです。物事はいつも自分の捉え方です。はじめからそこに、つらい、苦しい、悲しい出来事があるわけではないのです。つらい、苦しい、悲しいと感じている自分がいるだけなのです。その事を乗り越えたらそのことはつらいと感じなくなります。また別のつらい事がやってきますが、逃げないで乗り越えた経験があると、乗り越えるすべを知っているので、つらい体験を乗り越えたり交わしたりする事が出来るようになります。経験を奪っていると、やがて大きな体験にぶつかると粉々になってしまうのです、だから小さな体験から乗り越えていく事が必要なのですね。人生で苦しみ、傷ついたらひとは、自分の苦しさを知っているから、人のつらさもわかり、人の心も理解でき、そして、人に優しくなれるのです。

苦しんだのであるならば、そこから、何か得なければ、苦しみ損ではないですか？悩んだのならば、次からは同じ事で悩まないようにしなくっちゃ、もったいないではないですか！ころんだら、何かを拾って立ちあがりましょう！それがプラス思考です。

そう言う意味では、悩む事、苦しむ事は、決して損ではない、必ず得る事がある、悩むから人は育つのです。悩みが新しい世界を連れてきてくれるのです。

大いに悩みましょう。悩みが出来たって恐れる事はありません。逆にたのしんでしましましょう。でも、なるだけなら悩まないですんで、悩んだとしても早く片付けたいのが人間です。だからこうやって学ぶ必要があるのですね。同じ行動を取るのでも知ってするのと知らないでするのは天地の差があります

また大人になってつらい事があったときは、乗り越えるために一番いいことは、感謝の気持ちを持つことです。「有難う」と思えるとき、自分に自身が一番、正直で、素直で、落ち着いているときだからです、だから、まずどんなときにも有難うと思うことから始めてみて下さい。これでまた成長できるぞ、このことを通して私に何を学べとっているのかと考えるのです。

そうすると心のゆとりが出来ます。ゆとりが出来たら、いろいろな考えが浮かびます。パニックになっていたら、子育てなんて何も出来ません、自分が余裕を持つこと、そこからすべては始まります。そしてなにより、感謝の心があれば、笑顔でいる事が出来るのです。さあ、今日から笑顔になりましょう。笑顔になったら、周りの人を明るく出来ます。回りを「ほっと」させられます。美人じゃないけど、一緒にいととってまごむ、ほっとするというほとんどの人は、笑顔が美しい人です。そして笑顔でいると一番ほっとしているのは、なにより自分なのです。だから、感謝すること、笑顔でいる事が大切なのですね。そしてその人は素敵な笑顔美人だと思います。

子育てを今一度、始めましょう。今日からでいいのです。遅くてもいいのです、あせらなくていいのです。自分のペースでいいのです。始める事が大切です。気づく事が大切なのです。でも問題の奥底にあることにしっかり目向けていきましょう。目先のことに振り回されずに。大丈夫、だってお母さん、あなたはこんなに、自分の子どものことがかわいいのですから。大好きなのですから、子どもの事を大切に思わない人はここまで読んで下さっていません。子どもを愛せているお母さんはその事で自分を愛せることが出来るようになるのですから、すべて大丈夫です。自分のことを信じてゆったり、子育てをしましょう。

子育ては、長い。でも、過ぎてしまえば、いとおいしいくらい、悲しいくらい短い。もう一度したくたってできないの。過ぎてしまえば、こんなに輝いていた時間はないのですよ。だから、お母さんが一番喜んで、子育てをお母さんが楽しめば、子どもが一番生き生きとしてくるのです。その姿を見て、何よりお母さん、あなたが一番幸福になれるのです。だから、ムリせず、楽しんで、がんばりましょう。楽しんでする子育て20年、苦しんでする20年。どちらも同じ20年です。今回は自信の芽を育てるための4から始めます。